

転倒、転落、冬型労災“滑る”事故に注意

6割が敷地内、企業に損失も 「個々人の注意も重要だ！」

2015年1月23日(金)13時42分

凍結や積雪に伴う冬型の労災が多発する時期になっている。例年、足を滑らせて転倒する事故が多く、大半が事業所内で発生。骨折など重傷を負う場合もあり、けがをした本人はもちろん、欠員や補償といった負担が会社側にも生じる。山形労働局健康安全課は融雪剤をまくなど、事前の備えで予防できるとし、事業者に対策を求めている。

米沢市内の事業所に勤める50代女性は昨年2月、会社の駐車場で転び、左手を打撲した。車を降りた途端の出来事。凍結路面で足を滑らせた。同市の40代女性は駐車場から玄関に向かう途中に転倒。手首の骨を折る大けがをした。

冬型の労災でもっとも多いのが転倒事故。昨冬は105人が転倒で負傷し、全体の4分の3を占めた。転落・墜落が18人、交通事故が10人と続くが、車のスリップ事故などいずれも「滑る」ことが主な原因。

脚立など足場が滑って倒れ、地面に転落するケースもある。

独自の対策を進める事業所もある。ある会社は、年間を通じて業務中に気付いた「危険」を社員が報告する提案制度を設けている。同社安全衛生管理室は「危険箇所を把握できる上、社員の意識も高まる」とする。

届いた意見を参考に会社は改善策を打つ。融雪機能のある駐車場の整備など大掛かりな改修だけでなく、工夫を重ねている。構内12カ所に融雪剤を入れたバケツを常備。社員がいつでも散布できるようにしている。ぬれて滑りやすくなる屋内の階段や床には人工芝のマットを敷設。路面のくぼみには水たまりができないよう溝を設けている。

労災保険料や信用への影響、欠員など、労災は企業にも大きな損失をもたらす。安全衛生管理室長は「事故防止に投資するメリットは非常に大きい」と話す。

山形労働局は安全パトロールなどを通じ、事業所に積極的な対策を促す方針。同局健康安全課は「事業所外の道路など対策ができない場所もある。滑りにくい靴を履いたり、すり足で歩くなど、個々人の注意も重要だ」としている。

- ★雪道がすべるのはあたり前、「すべること」を意識しましょう
- ★路面状況に応じて、十分な車間距離を確保しましょう

荷台からの転落、手足の挟まれ事故に注意！
夕方からの積卸作業時は、ヘルメット・ライトを使用すること

バック時は 降りて確認 乗っても確認

2時間ごとに、15分休憩！

追突、玉突き事故を防ぐ
交差点手前で止まる時は、車1台分のスペースを空けて止まる

交差点 「右左確認／よ～し！」

凍結路面でスリップ はみ出し、正面衝突

2015/01/23 栃木県警察本部 特別編集

18日午後3時10分ごろ、栃木県の県道を走行していた乗用車が対向車線側へ逸脱。対向車線を順走してきた大型路線バスと正面衝突する事故が起きた。この事故で乗用車に同乗していた2人が軽傷を負っている。現場は片側1車線の緩やかなカーブ。事故当時、現場の路面は一部が凍結していた。警察では乗用車がスリップしたものとみている。

信号のない交差点、はねられ男児死亡

2015年1月21日(水)16時48分

神奈川県の信号機のない交差点で、21日午前8時半頃、横断歩道を渡っていた小学2年の男子児童が左折しようとしたクレーン車にはねられて死亡し、警察は運転していた55歳の男を現行犯逮捕した。